



# 東北大学史料館 だより

No.25  
2016 Sep.

## TOHOKU UNIVERSITY ARCHIVES NEWSLETTER

### 東北学術界の陰の立役者、齋藤報恩会

東北地方の学術界を支え、東北大学を代表する研究や資料収集が実現したのは、1923年創立の財団法人「齋藤報恩会」の資金援助のおかげでした。

**お金**に注目してみましょう。齋藤善衛門が財団設立のために拠出した金額は300万円、1925年の東北帝大教授（八等）の1年間の俸給が約2千円、助手が約840円であること（「官俸俸給 東北帝国大学／大正4～昭和2年」参考）から考えますと、その巨額さがわかります。

1923年の最高補助費は2万5千円の「ヴント文庫」、1924年は2万5千10円の中村左衛門太郎「地形地物の地震動に及ぼす影響に関する研究」、1925年～1929年までは八木秀次らによる「電気を利用する通信法の研究」が毎年4万円の補助を受けています。1930年と1931年の最高は本多光太郎らの「低温研究」、1932～1936年は大久保準三らの「物質の磁性に関する研究」、1937～1939年には農学研究所設置のための研究資金が最高額でした。（以上、「学術研究補助交付調」参考）

補助対象には本学の誇る研究分野が名を連ね、20世紀初頭に起こった世界的なビックサイエンス構築の流れを東北から支えた財団の姿が浮かび上がります。

### 今は無き「堂々たるモダン・ルネッサンスの大建築」

写真の齋藤報恩会館は「仙台市大聖寺裏門通三番地」（今の勾当台公園近く）にあり、1933年に竣工しました。設計は東北大学史料館も設計した仙台高等工業学校建築学科教授小倉強（戦後は東北大教授）によるもので、総工事費は29万9千円、建材には地元秋保産の石材を使用していました。

会館の中には「博物館」が併設されており、研究者の研究促進と共に、標本陳列室を市民や学生児童に公開することによって社会教育の一助を担うという画期的な理念に基づいて運営されていきます。開館当初の4日間には延べ5万人の来場者が殺到したといわれています。（以上、「齋藤報恩会館開館記事」参考）その後齋藤報恩会館は、1945年の仙台空襲によって被災、1973年に建て直しのために解体されました。

### Index

- 2 東北帝国大学と齋藤報恩会  
出雲科学館 米澤晋彦
- 4 所蔵文書検索システムの開設
- 6 資料の公開について
- 7 史料館のうごき
- 8 お知らせ
  - ・秋の土日開館
  - ・企画展

写真：昭和12年（1937）頃の齋藤報恩会館／「東北帝国大学医学部卒業記念 第十八回」アルバム



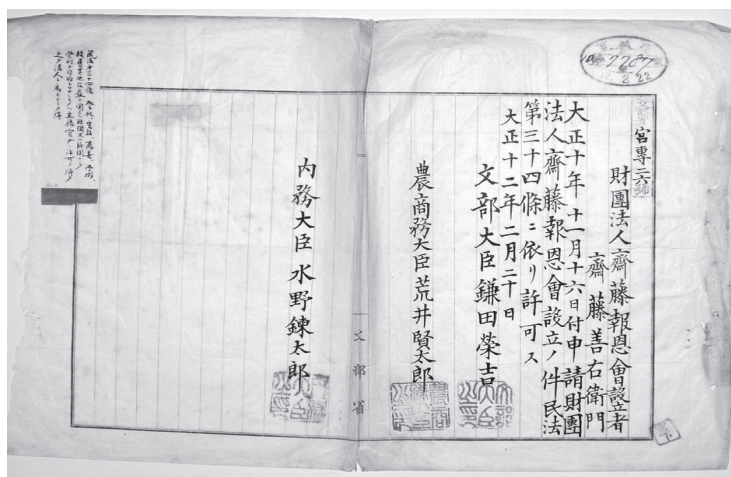
## 東北帝国大学と斎藤報恩会

出雲科学館講師 米澤晋彦



財団法人斎藤報恩会。この名を聞いたことのある東北大学関係者は現在ではそう多くはないかもしれませんが、しかし、大正末期の東北帝国大学においては、その名を知らない者はいなかったに相違ありません。それだけ斎藤報恩会と東北帝国大学は深い関わりがありました。

斎藤報恩会は斎藤家第九代当主斎藤善右衛門有成（1854～1925）の私財300万円を基にして1923（大正12）年2月20日に文部省、農商務省、内務省に認可された財団法人です。事業費のうち学術研究事業に6割以内、産業開発事業に2割以内、社会事業に2割以内を充てるとするなど、学術研究助成に重点を置いた財団法人でした。『大正拾壹年度財団法人斎藤報恩会事業報告書』によりますと、斎藤報恩会が財団法人として認可されて最初に行った事業は、東北帝国大学に対するヴント文庫購入寄附でした。実はこのヴント文庫、斎藤報恩会が設立審査中であった1922（大正11）年10月には既に東北帝国大学法文学部へ寄附することが決まっていたのでした。助成金額が最も多かったのが八木秀次らの「電気通信法ノ研究」に対するもので、総額は21万7千円にもなりました。この研究により大正13年度から1935（昭和10）年8月までに487本の論文が発表され、「八木・宇田アンテナ」をはじめとして電気工学上の重要な発明・発見がされたのでした。そして八木らは報恩会の助成による共同研究が「顕著なる研究業績」を挙げたために、「電気通信法共同研究の永続を可能ならしめるため」に工学部附属電気通信研究所設置のための予算要求に至ったのでした。



財団法人斎藤報恩会設立許可書

斎藤報恩会の設立にも、東北帝国大学は関わっていました。『東北大学50年史』には、斎藤が東北帝国大学誕生の頃、初代総長澤柳政太郎に「公益に私財を献ずる」方法を尋ねたところ、澤柳が世界の名著を翻訳して、広く日本の社会に広げることすすめたとあります。また斎藤が第4代総長小川正孝を訪ねて意見を求めた結果、斎藤報恩会設立の構想を得たとあります。第5代総長井上仁吉は、『斎藤善右衛門翁伝』の序文において、斎藤報恩会の寄附行為作成に関わったことや、斎藤に「財団設立式辞」の添削を乞われたことを述べています。井上は斎藤が財団法人設立を決定した後に、その寄附行為など具体的な内容の作成に携

わったのでした。

学術研究助成の採否を決めたのは、東北帝国大学の研究者たちでした。1923（大正12）年7月8日、第5回評議員会において評議員中から「査定委員」を3名選出する選挙が行われ、小川、井上と法文学部長の佐藤丑次郎が選出されました。これにより、研究費補助の審査は全てが「査定委員」に附託されることとなりました。翌年には医学部の熊谷岱蔵、理学部の畑井新喜司が加わり、5名が「審査委員」として審査を行い、1924（大正13）年6月12日に連名で「斎藤報恩会学術研究費補助審査方針」を示しました。その後、1927（昭和2）年には「審査員」を設けず、東北帝国大学総長の「監督」を受ける立場であった学術研究総務部長の査定通りに採否が決まったのでした。当時の学術研究総務部長は畑井でした。畑井は1926（大正15）年1月23日の第4回評議員会において、今までの学術研究助成とは別に、評議員会の議決を待たずに、学術研究総務部長の意見に基づいて理事会において行うことのできる「臨時補助費」の承認を求めました。この案は翌月の第5回評議員会において、1件1,000円以内総額3,000円を限度として承認されました。ここに学術研究総務部長の権限によって新たな補助ができることとなったのですが、この総額は1928（昭和3）年にはとても有効で、今後一層利用すべきであるとして、5,000円まで増額されたのでした。このような審査であれば、東北帝国大学の意向に沿った審査をすることが可能であったでしょう。

学術研究助成の実際はどうであったのでしょうか。大正13年度の『学術研究費補助審査報告採用査定ノ部』には、審査委員の研究であっても助成を受けられない事例が存在していました。また、大正13年度から昭和3年度までにおいて助成を受けた研究についてみると、金額では東北帝国大学所属の研究者の占める割合が多かったものの、件数では徐々に減少し、ついには東北帝国大学以外の研究者の占める割合が多くなったのでした。これらのことからすると、東北帝国大学関係者に偏重した審査が行われたとは言い切れないでしょう。

斎藤報恩会による学術研究助成において重要な役割を果たしたのが畑井でした。畑井は1925（大正14）年から15年間、学術研究総務部長として斎藤報恩会の中心となって活躍しました。学術研究総務部長は1925（大正14）年5月20日の評議員会において議決された「財団法人斎藤報恩会学術研究総務部規程」により、東北帝国大学総長の「監督」を受け、学術研究費補助審査に参加するのみならず、補助を受けた研究の進捗状況を調査することが定められていました。畑井は東北地方の文部省直轄諸学校に精力的に赴き、研究者たちが熱心に研究を行い、著しい成績を挙げていることに満足しました。そして「此の機運を促進して一層東北地方の学術研究を振興」するために、1927（昭和2）年11月24日に東北地方文部省直轄諸学校並専門学校長協議会を開催しました。この会議の結果、諸学校及び専門学校の研究者が斎藤報恩会の助成を受けやすくするための制度整備が行われました。制度的には学術研究費補助審査の裁量権が東北帝国大学及び学術研究総務部長としての畑井に集中されていく中で、畑井は東北帝国大学のためというよりはむしろ、東北地方の学術の発展のために尽くしていったと言えるのではないのでしょうか。

以上のように東北大学と深い関わりがあり、その研究を支えた斎藤報恩会は、昨年財団法人としての活動を終え、解散しました。解散にあたり、貴重な所蔵品や資料の数々は東北大学や仙台市に寄贈されました。この秋、東北大学史料館において、寄贈された資料の一部が公開されることになりました。東北大学の関係者としては、是非見ておくべきものではないのでしょうか。

東北大学史料館 企画展

**学都仙台を支えた「天財」**  
— 斎藤報恩会と東北大学 —

2016年9月30日(金)～2016年12月27日(火)

企画展関連講座

**学都仙台と斎藤報恩会**

2016年11月3日(木・祝)

※本ページに執筆していた  
だいた米澤晋彦先生もご  
発表されます。

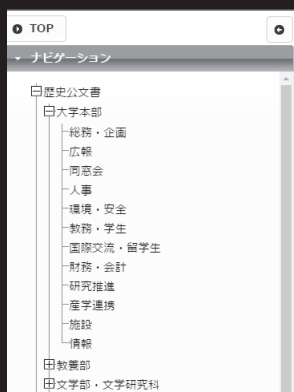
詳細は8ページへ

# 東北大学デジタルアーカイブズに

東北大学史料館デジタルアーカイブズ (<http://www2.archives.tohoku.ac.jp/tuda/tuda-index.html>) にアクセスすると、「所蔵資料文書検索システム」に入ることができ、東北大学史料館が一般公開している資料のうち、(1) 東北大学の歴史公文書、(2) 刊行物（東北大学および関係機関）、(3) 個人・関係団体文書（東北大学の元教職員・学生など）に関する目録情報を検索できます。

## ●ナビゲーション機能

階層検索によって資料の分類をたどりながら検索することが可能。  
例：大学広報のファイルが見たい時…  
歴史公文書＞大学本部＞広報



## ●簡易検索

歴史公文書、学内刊行物、個人・関係団体文書目録それぞれにフリーワード検索が可能。



## ●フリーワード検索

## ●詳細検索

年代指定、タイトルや作成・取得者、移管前の管理組織、複製物、利用制限など、細かい情報を含めた検索が可能。

## ◆史料館のご利用ガイド

史料館には東北大学の過去、現在、未来を知るための手

### ●閲覧室の利用

当館の所蔵資料を閲覧される方は、**当館 1 階の閲覧室**をご利用いただけます。教職員・学生・一般を問わず、**どなたでも**ご利用できます。

閲覧室には、東北大学の主な学内刊行物や東北大学の歴史に関する参考文献、国内大学の大学史とその関連文献を開架しており、自由に閲覧することができます。



### ●特定歴史公文書の利用

特定歴史公文書とは、**当館に移管された東北大学の法人文書**を指します。2016年3月31日現在 7383 点の法人文書が当館に移管されています。



2015 年度末で保存期間満了となり移管されたほやほやの法人文書たちです。

**どなたでも、所定の利用請求書を提出**していただければご利用になります。(利用制限事項に該当する情報が記載されている場合は審査の上、ご利用いただくことになります。)

### ●個人・関係団体

当館には、**東北大学の教職員**や**関係団体文書**、また**包摂学校や宮城女子専門学校**、**仙の教職員**、**卒業生**、**関係団体**を受け所蔵しています。ウェ認して希望する資料を見つけ、ご提出いただくと、資料を閲(利用審査がある場合もござい

たとえば…

本多光太郎文書 / 抜山  
ハンス・モーリッシュ  
魯迅ノート (複製) /  
村岡典嗣文書 / 大島正

※詳しくは東北大学史料館ウェブにあります「閲覧手続等」(<http://>)

# 「所蔵文書検索システム」を開設！

さらに便利になりました！

## ①「件名」レベルの情報検索も可能に！

ファイル名、書名、資料群名以外に、さらに詳しいファイルの内容を「件名」「資料名」ごとに検索することができ、個別に閲覧・複写申請も可能です。

※件名・資料名検索は一部できないものもあります。

## ②検索表記のあれこれ

整理番号	(記述レベル)タイトル
石崎 1	(シリーズ名)法文学部学従動員関係資料 [all]19870311C [件名・資料名一覧]19870311C
石崎/1/1-1	(資料名(ファイル))法文学部一年生学芸奨励二回スル打会事項 [all]19870311C [件名・資料名一覧]19870311C
石崎/1/1-2	(資料名(ファイル))法文学部二年生学芸奨励二回スル打会事項 [all]19870311C [件名・資料名一覧]19870311C

[all] 表記

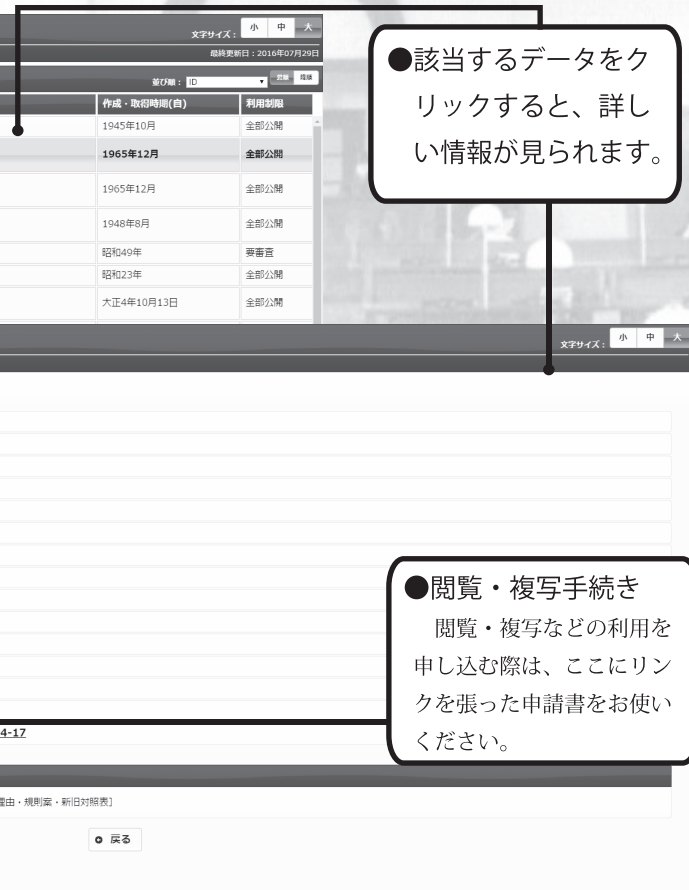
[件名・資料名一覧] 表記

検索結果一覧にある [all] とある表記をクリックすると、ファイル名・件名データを一覧形式で表記でき、[件名・資料名一覧] とある表記をクリックすると、件名・資料名データのみが一覧形式で表示されます。

●該当するデータをクリックすると、詳しい情報が見られます。

## ●閲覧・複写手続き

閲覧・複写などの利用を申し込む際は、ここにリンクを張った申請書をお使いください。



がかりがあります。お気軽にご利用ください。

## 資料の利用

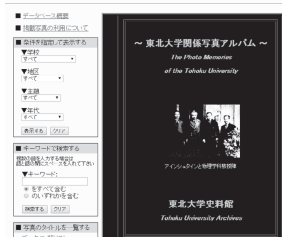
員、卒業生の個人文学学校である**第二高等台医学専門学校**などの文書を数多く寄贈。上の目録などを確認の上、所定の閲覧申請書を閲覧いただけます。

平一文書 / 関係資料 / 野副鐵男関係資料 / 隆文書など

## ●画像データの利用

当館では、**所蔵写真資料**のうち史料的高いと思われるものについて電子化を進め、「**東北大学関係写真データベース**」(<http://webdb3.museum.tohoku.ac.jp/tua-photo/>)で登録公開しています。またウェブで公開中の者のより高い解像度の写真をご希望の方には**写真データの複製を交付**しています。所定の申請書類でお申し込みください。

東北大学関係写真データベース



## ●facebook, twitter もやっています！

facebook アカウント @tuarc

アドレス <https://www.facebook.com/tuarc>

twitter アカウント @T\_U\_Archives

アドレス [https://twitter.com/T\\_U\\_Archives](https://twitter.com/T_U_Archives)



史料館 2 階の常設展、特別展も見どころですよ！入館費無料ですので、お気軽にお立ち寄りください。



十敏館長

[www2.archives.tohoku.ac.jp/etsuran.html](http://www2.archives.tohoku.ac.jp/etsuran.html) をご覧ください。

## 資料の公開について.....

## ◆特定歴史公文書.....

2016年（平成28）4月20日付で新たに955点の特定歴史公文書の公開を開始しました。今回新たに公開された主な文書は下記の通りです。

- ①**国際交流課文書** 海外大学との学术交流協定締結に関する文書（1980年代以降）や、研究員招聘や留学生派遣にかかる学術助成関係など。1980～90年代のものが中心。
- ②**教育学部文書** 昭和30～50年代の教授会・大学院研究科委員会などの議事録。
- ③**工学部文書（教務関係）** 大正8年の創設時から昭和30年代までの、入学願書や学籍管理など教務に関する記録。
- ④**教養部文書** 昭和50年代～平成初年の会議資料（教授会、学科主任会議）や教養部改革にかかる資料（改革推進室関係など）。教養部改組の経緯を知る重要資料。
- ⑤**附属図書館文書** 昭和初期～昭和40年代の図書受入関係や戦前の帝国大学附属図書館協議会、戦後の国立大学図書館協議会などに関する文書。
- ⑥**臨時教員養成所関係（理学研究科移管）** 戦中から戦後初期にかけて理学部（数学科）に併設された教員養成所の学籍記録等（理学部）
- ⑦**仙台工業専門学校関係（工学研究科教務係移管）** 創立から廃校までの時期の入学願書、学生原簿等など。戦時中に同校に敷設された文部省科学研究補助技術員養成所、満洲帝国交通部委託土木技術員養成所などの記録も含む。

## ◆個人・団体文書.....

## ●吉田震太郎文書

吉田震太郎（1927～2016）は、本学経済学部で教授をつとめた経済学者です。主な研究業績としては、現代日本における中央政府と地方政府の財政関係の歴史的起源についての研究などが知られています。本文書は全144点からなり、大半は吉田氏が本学在任中に取得した大学紛争関係のビラで、2006年に本人から寄贈を受けました。大学紛争関係、大学改革関係、経済学部経営学科問題関係、仙台学生会館問題関係などに分け整理・公開をしています。

## ●在外同胞救出仙台学生同盟関係資料

1946年春、外地に父兄を残す学生生徒を中心に、彼らの相互扶助と引揚者の支援をおこなう「在外父兄救出仙台学生同盟」として発足した組織の関係資料です。東北大学や東北学院をはじめとする、仙台の様々な学校の学生たちが学校の枠を越えて参加していました。この同盟員が使用した腕章やバッジ、同盟で発行した週報、解散時に編纂された記念誌、同盟解散後続けられたOBによる集いの資料など、計36点が含まれています。元同盟員の石川規夫氏、梅林正宏氏が所蔵ないし収集した資料を2014年に受贈しました。

## ●小西保旧蔵 東北帝国大学学徒動員関係資料

東北帝国大学学生課（報国隊本部／学徒動員部）で作成・収受した、学徒動労働員関係の事務書類です。業務日誌や動員学生からの書信など、東北帝国大学における学徒動労働員の全体像を知る上で基本となる資料となっています。もともとは東北帝国大学学生課の公文書ですが、戦後東北帝国大学を退職された小西保氏（元東北帝国大学学生主事補）の許で保管され、2015年5月に御遺族より寄贈されました。

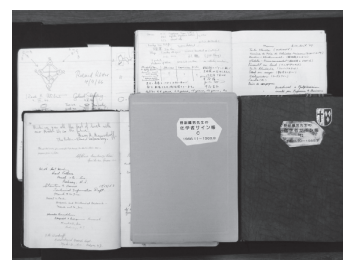
## 史料館のうごき (2016年3月～2016年8月) .....

### ◇第4回大学アーカイブズセミナーを開催しました (3月11日)

東北大学史料館では、本館の所蔵資料や実践経験をテーマに大学史やアーカイブズ学について学ぶ「大学アーカイブズセミナー」を開催しています。第4回は科研費「黒田チカの生涯—最初の女子学生の教育・研究・人間・社会」研究会との共催で、2013年に本館に寄贈された「黒田チカ資料」のもつ学術資源としての可能性について2本の報告がありました。永田英明氏 (東北大学史料館)「黒田チカ資料の整理—眞島利行書簡を中心に」は大学時代からの恩師眞島利行との関係、志賀祐紀氏 (奈良女子大学大学院/元お茶の水女子大学歴史資料館アカデミック・アシスタント)「黒田チカ資料の日記・書簡から」は教授として永く在職した東京女子高等師範学校を中心とする教え子や同僚との関係といった形で、周囲の人々との関係から黒田の人間像にアプローチする報告でした。

### ◇当史料館所蔵「野副鐵男資料」が、日本化学会「化学遺産」に認定

東北大学理学部で教授を務めた化学者、野副鐵男 (1902～1996) の関連資料、非ベンゼン系芳香族化合物資料 (東北大学総合学術博物館所蔵) と化学者サイン帳 (東北大学史料館所蔵) が日本化学会の「化学遺産」に認定されました。全9冊に及ぶサイン帳は、1953年から1994年までの間に約4000人の研究者がサインし、この中にノーベル賞受賞者が少なくとも37名含まれています。



### ◇2016年度の法人文書の受入・評価を行いました (4月22日～6月16日)

2015年度末に保存期間を満了した法人文書の中から本学の「特定歴史公文書」として616点 (予定外の追加移管を含む) の法人文書を当館公文書室に受け入れました。あわせて、2016年度末に保存期間を満了する予定の文書の評価を行い、移管予定となる文書を246点選定しました。引継を完了した文書については、今後、内容などに関する点検調査を行ったのち公開する予定です。

### ◇第19回新公開資料速報展を開催しました (6月3日～9月9日)

整理が完了し新たに公開された資料を紹介する新公開資料速報展の第19回「東北の音楽界を支えて—交響学部関係資料—」・第20回「『国際交流協定』時代の幕開け—国際交流課移管文書より—」を当館第2企画展示室にて行いました。

### ◇資料保存の取り組み (7月15日)

保存環境が悪く黒カビが生えた法人文書ファイルを修復するため、東北大学災害科学国際研究所のご協力を得て、フリーズドライヤーで真空凍結乾燥を行うこととなりました。まずファイルを $-40^{\circ}\text{C}$ でよく凍結した後、専用の機械で氷から直接水蒸気に昇華させて乾燥を行います。災害研の天野真志助教によると今まで被災した近世史料などを1回あたり2日ほどかけて真空凍結乾燥させてきたそうですが、対象物が厚手の公文書ファイルであるため、どれほど時間がかかるかは未知数とのことでした。



(左)  $-40^{\circ}\text{C}$ の冷却処理



(中央) フリーズドライヤー



(右) 棚に入れ真空凍結乾燥処理

# 秋の土日開館と企画展のご案内

今年も、秋の土曜・日曜開館を実施します。斎藤報恩会からの寄贈にあたり、下記の企画展などを開催しますので、ぜひ足をお運びください。

●土曜・日曜開館実施期間 2016年10月1日(土)～10月30日(日)

※土曜・日曜の開館時間は午前10時～午後4時です。 ※祝日は休館します。

## 東北大学史料館企画展

# 学都仙台を支えた「天財」－斎藤報恩会と東北大学－

2016年9月30日(金)～2016年12月27日(火)

開館時間:10:00～17:00(平日)

:10:00～16:00(土・日・祝)

※2016年10月30日(日)以降の土・日曜、祝日、年末年始は休館  
11月3日(木・祝)は企画展関連講座のため開館します。

入館料:無料

斎藤報恩会の設立、運営にあたっては東北大学の教員や出身者が深く関わっており、また報恩会の学術研究助成によつてたくさんの方が研究が実施されました。東北大学を支えた報恩会のすがたを、さまざまな資料とともにご紹介します。



### ●企画展関連講座

## 学都仙台と斎藤報恩会

日時 2016年11月3日(木・祝)

午後1時～午後4時

会場 東北大学北門会館エスパス

内容 ①東北帝国大学と斎藤報恩会

米澤晋彦(出雲科学館講師)

②仙台の郷土史研究と斎藤報恩会

菅野正道(仙台市博物館学芸普及室長)

③展示解説

※入場無料。①お名前と②連絡先を明記の上、メール、FAX、又は往復ハガキでお申し込み下さい。

同時開催 仙台市博物館企画展

## 戦国の伊達・政宗の城・仙台の町－斎藤報恩会寄贈の名品

2016年11月11日(金)～12月27日(火) ※詳しい休館日はウェブをご覧ください。

開館時間:9:00～16:45

入館料:一般 460円 高校生 230円 小・中学生 110円

※東北大学はキャンパスメンバーズのため学生・教職員は無料で観覧できます!

## 東北学院史資料センター 2016年度公開シンポジウム

### 学都仙台と戦争

2016年10月1日(土) 15:00～17:00 東北学院大学 土樋キャンパス8号館 5階 押川記念ホール

申込不要・入場無料

講演 永田 英明(東北大学史料館准教授) 「学都仙台の学生と戦争－東北大学所蔵の資料から」  
加藤 諭(東京大学文書館特任助教) 「大学アーカイブズにみる戦前・戦時期の記録－東京大学文書館所蔵資料を中心に－」  
河西 晃祐(東北学院大学文学部教授・東北学院史資料センター所長) 「戦時下の東北学院」

東北大学史料館だより 第25号 2016年9月12日発行

編集・発行 東北大学学術資源研究公開センター史料館

〒980-8576 宮城県仙台市青葉区片平2-1-1 TEL 022-217-5040 FAX 022-217-4998

E-mail desk-tua@grp.tohoku.ac.jp URL http://www2.archives.tohoku.ac.jp/ Twitter @T\_U\_Archives